

(平成27年度)

全国学力・学習状況調査からみる本校6学年児童の傾向と改善の方向について

本年4月21日に6学年を対象に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、本校の傾向と改善の方向についてお知らせします。

この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の結果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことにあります。公表にあたっては、「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ」た上で、調査結果の分析に基づいた本校の傾向を示し、日々の教育活動や今後の具体的な取り組みについて検討して改善に役立てたいと考えています。

1 【国語】 ＊全体的にととてもよくできています

(1) 【話すこと・聞くこと】

「話の内容に対する聞き方を工夫する」について、聞き方の説明として適切なものを選択する問題がA問題で出題されましたが、正答率66.0%と県や全国の平均に比べとてもよくできていました。提案スピーチや討論会など、聞くことと話すことについて学習する機会を意図的・計画的に指導してきた成果が表れています。今後も相手の話の目的や意図を捉えながら内容を十分に聞き取り、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる指導を大切にしていきます。

(2) 【書くこと】

A問題の「具体的な事例を挙げて説明する文章を書く」では、正答率89.4%と県や全国に比べとてもよくできていました。また、B問題の正答率も73.0%となり、昨年課題だった要旨を捉える問題や、文章と図を関係づけながら自分の考えを書いたり登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読の工夫や理由を書いたりする問題、目的や意図に応じて記事の割り付けや見出しの工夫について答える問題など、ほとんどの問題でとてもよくできていました。「目的や意図に応じて取材した内容を整理しながら書く」では、正答率が29.8%と県や全国の傾向と同様に低くなっていますので、新聞づくりやパンフレット作りなどをする機会を増やし、読み手に伝えたいことの内容を明確にした上で、自分で調べた内容や、関係者に取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように、整理して記事が書けるようにする指導を大切にしていきます。

(3) 【読むこと】

B問題の正答率は81.9%と、県や全国の平均に比べとてもよくできました。A問題では「登場人物の相互関係を捉える問題(76.6%)」や「作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る問題(87.2%)」では相当数の児童ができていましたが、「新聞のコラムを読んで、表現の工夫をとらえる問題」では、正答率が25.5%~57.4%と全国や県の傾向と同様に低くなっています。「自分の考えを補説したい」「説得力を高めたい」「具体例を挙げて読み手を納得させたい」など、目的に応じて、文章の表現や情報だけでなく、図表やグラフ、絵や写真などを適切に引用することができるようにする指導を大切にしていきます。

(4) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

「漢字を読む」では、「招く」の正答率 100%をはじめすべての設問でよくできていましたが、「漢字を書く」では「浴びる」や「病院」の正答率が 80.0%以上と高かったのに対し、「巢」の正答率 74.5%と県や全国の平均をやや下回りました。漢字や熟語などの意味と使い方を理解し、ドリルや家庭学習などで定着を図る指導を大切にしていきます。また、「文の中における主語を捉える問題」の正答率が 57.4%と、全国や県の傾向と同様に低くなっています。主語と述語は文の骨格をなし、明確な文を書く上で最も基礎となる部分であることを、文や文章を理解したり表現したりする時に強く意識できるように指導していきます。また、修飾と被修飾の関係についてもはっきりさせるとともに、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について理解が深まるようにする指導を大切にしていきます。

2 【算数】 * 全体的にととてもよくできています

(1) 【算数 A】 主として知識に関わる問題

◇算数 A 問題の正答率は県平均・全国平均を大きく上回りました。領域別にみると、正答率が「数量関係 (91.5%)」「数と計算 (85.7%)」と高く、「量と測定」「図形」も同様にしっかりと定着しています。昨年度の反省を生かし、既習内容の剥落を防ぐ指導に力を入れてきた成果が表れています。今後もさらなる学力の向上を目指し、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っていくために、繰り返しのドリル学習や、家庭学習を充実させていきます。

◇選択式問題の正答率ばかりでなく、短答式の設問で正答率 86.1%と県や全国の平均を大きく上回りました。絵や図、式などをもとに、考えたことを自分の言葉で説明したり友の考えを聞いたりする活動や、自分の言葉で相手に分かりやすく伝えるために考えを記述で説明する活動を充実させてきたことも、こうした結果や成果につながる大きな要因であったと考え、今後も算数における言語活動を充実させていきます。

(2) 【算数 B】 主として活用に関わる問題

◇算数 B 問題の正答率は県平均・全国平均を大きく上回りました。「数と計算 (正答率 60.1%)」「図形 (57.1%)」と高く「量と測定」「数量関係」も同様にしっかりと活用できています。また、設問別にみてもすべての問題で県や全国の平均を上回りました。基本的な知識や理解などの既習内容をもとに、それを応用したり生活に活かしたりする力が身につけてきています。さらに、設問を形式別に分類してみても、「四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く (正答率 80.9%)」「示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見い出し、正しい求め方と答えを書く (72.3%)」などの短答式問題や記述式問題で県や全国の平均を大きく上回り、とてもよくできました。絵図を用いながら説明したり書いたりするなどの言語活動の充実を図ってきた成果が表れています。今後も算数の授業の中で、既習事項を発展的ににつかって解く問題も取り入れたり、記述式問題が充実したテストなどを用いたりしながら、理解を深める指導に力を入れていきます。

3 【理科】 * 全体的にととてもよくできています

◇理科の正答率は県平均・全国平均を大きく上回りました。「エネルギー (78.7%)」「物質 (77.2%)」と高く「生命」「地球」も同様に大変よくできました。また理科は、国語や算数でいう A 問題、B 問題の区別がありませんので、設問を「主として知識に関する問題」と「主として活用に関する問題」に分類して分析してみましたが、いずれも全国平均・県平均を大きく上回っています。基本的な知識・理解が深まり、それらの知識・理解を応用したり生活に活かしたりする力も身につけてきているといえます。

◆すべての設問で平均を大きく上回ってはいますが、全国や県の傾向と同様に、記述式の問題での正答率は 56.0%と他の設問に比べて下がります。実験や観察の目的を明確にし、児童自らが実験や観察の方法を考えたり、結果をもとに考察したりしたことを、自分の言葉で記述しまとめるなど、理科における言語活動の充実を図る指導に力を入れていきます。

4 【児童質問紙からの傾向】

学習環境・学習意欲・学習方法・生活の諸側面に関して、次のような良さと課題があります。

- ◇「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学校はみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」は、長野県や全国の平均に比べてとても高くなっています。学級や学校生活が充実しており、満足していることが伝わってきます。6年生は委員会活動や行事の中心になって活動することが多くやりがいを感じていることや、学級や学年でまとまって企画・運営をしていくことで連帯感が増していることが、こうした結果につながっていると思います。これから先も音楽会や児童会のビッグイベントを通じて充実感の持てる学校生活にしていきたいと思います。
- ◇「家の人と学校での出来事について話をしますか」や「家の人は授業参観や学校の行事に来ますか」の問いに対して、「そう思う」の割合が高くなっており、学校教育に対する保護者の皆様のご理解とご協力があることも、子どもたちの充実した生活や学力の向上にもつながっています。
- ◇昨年同様、テレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームや携帯式ゲームをする時間、携帯電話やパソコンなどを使ったり見たりする時間は少なく、学校の授業以外に学習する時間や読書をする時間、ニュースなどを見る時間が多くなっています。家庭でのルール作りや学習環境、生活習慣がきちんとしていて、学力の向上にもつながっています。
- ◇家庭学習は家できちんとし、予習や復習など自分で計画を立てて学習をしているという回答が多くなっています。家庭学習の習慣が身につくにつれて、学力の向上にもつながっています。また、家庭での学習習慣や基本的な生活習慣が身につくにつれて児童ほど学力が高いという結果につながっています。
- ◇「新聞を読みますか」や「地域行事に参加しますか」の問いに対して「そう思う」や「どちらかというと思う」の割合が高く、地域や社会との関わりが深くなっています。学習したことを地域や社会と関連付けて考える力につながっています。
- ◆本年度も「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」の問いに、「そう思う」という回答が多くなっています。昨年度の反省から、説明したり書いたりといった言語活動の充実を図り全教科で指導してきた結果、国語や算数での記述式問題での正答率は高くなりました。しかしながら、作文に対する苦手意識があったり、書くこと自体が好きではなかったりする児童の割合が少なくなったわけではありませんので、引き続き各教科での言語活動を充実させながら、日記や手紙、学習カードなどを通して書くことを習慣化する指導にも力を入れていきます。
- ◆「自分にはよいところがあると思いますか」の問いで「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合がやや多く、本校ではここ数年、同様の傾向が続いております。学校や学級の居心地は良く認め合える環境はできてきていますので、そうした環境を維持しながら、自己の良さや頑張り、成長や進歩が感じられるよう、今まで以上に自己肯定感を高める指導に力を入れていきます。
- ◆「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合が長野県や全国よりもやや多くなっています。人権教育は学校教育活動の中心において指導してきておりますが、人の心の痛みやいじめによる悲しみについては重ねて指導をして参りたいと思います。11月はなかよし月間を計画しております。校長講話や人権教育の授業により子どもたち心に迫って参ります。

本校の児童は家庭や地域の教育力に支えられて健全に育っており、学校生活も楽しく充実したものになっていると感じています。今後さらに、学校や家庭での過ごし方の振り返りをするとともに、人から言われてやるのではなく、自分から進んで学習する「鍋っ子学習（家庭学習の手引き）」を指導していきたいと考えています。一人ひとりの生活や学習の仕方を見直して改善していくことが、学力の向上とともに健全な育ちにつながっていきます。学校とご家庭との連携を一層取り合っていきたいと思います。

以上のように、この調査から見える成果や課題をしっかりと受け止め、指導・支援の充実を図り、確かな学力の向上に努めてまいります。また、ご家庭においても、生活習慣や学習環境、家庭学習の在り方等についてさらなる改善に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。